

感想文集より

不登校だった私…感謝しかないです！

… 高校2年生女子R

私は中学二年生の時から学校へ行かなくなりました。

朝と夜が逆の生活になっていて、起きるのは夕方、寝るのは朝という不規則な生活をおくっていました。

ごはんも、お菓子を食べるか、夜ごはんを1日1回だけ食べるという生活でした。起きても特にする事が無いので毎日ぼーとしていました。

家にばかりずっといるので、最初は何ともなかった外に出るという事が怖くなっていきました。しまいには、自分の部屋のカーテンさえ開けるのが怖くなってきました。

こんな生活をずっとしていると将来の不安も出てきました。

「この先、このままだと自分はどうなるんだろうか？自分はいらない、誰からも必要とされていない人間だから生きていいのだろうか？」

そんな時に、両親が「森本先生のところに1回行ってみないか」と言ってきました。すぐに決断できなかったです。でもこのままでは、この繰り返しだと思い、行ってみることにしました。あの頃の私は、多分、笑顔もなく全然しゃべらない子だったと思います。

そんな私を、森本先生や吹田子ども支援センターのみんなはあたたかく迎えてくれました。

最初の1ヶ月ぐらいいは、週に1回行くか行かないかぐらいのペースで行っていました。朝と夜も逆転していたので、最初は全然起きられなかったです。行っても、お昼過ぎに来て少し事務の人としゃべってからすぐに帰っていました。

1ヶ月過ぎたあたりから森本先生に勉強してみないかと言われました。最初は、15分も勉強できませんでした。それが20分、30分と段々延びていきました。人から見たら少ないと思います。しかし、学校に行けなくなって家にずっといた私からしたらすごい事です。

勉強する事によって教えてくれる大学生の人としゃべるようになりました。こうして少しずつ人としゃべれるようになっていきました。クリスマスパーティなど色々して、外にも普通に出来るようになりました。

高校も、最初は「自分なんて行けないだろうな」と諦めていました。

ですが、森本先生や吹田子ども支援センターの人々のおかげで無事高校にも入学できました。高校でのテストで点が悪く困っていた私に、今も勉強を教えてくれています。

私は恵まれていると思います。感謝しかありません。

外にも出られずにずっと家の中にいた私が今こうして外に出られて人としゃべれているのは森本先生や吹田子ども支援センターに出会ったからです。

もしも出会わなければ、外にも出られずに今でも私はずっと家にいたと思います。高校にも行けてなかったと思います。

私は、子どもカフェに入って、人と接せられるようになり、人と接する楽しさがわかりました。

外に出られなかったり、あまり上手にしゃべれなく悩んでいる子に、子どもカフェに行き、勉強だけでなく、人と接する楽しさをわかってほしいです。

(追記) 高校卒業・大学生に…スタッフの一員に！

… その後の高校2年生女子R

この吹田子ども支援センターの皆さんの支援のおかげで無事高校に入学できました。

高校生になってからも中学生の時に勉強していなかったこともあり、最初は高校の勉強に全然ついていけなかったです。その上、部活や通学で毎日遅くに帰ってきました。

そんな私に合わせて、夜遅い時間からや休みの日も勉強を教えてくださいました。私は、基本英語を中心に教えてもらっていたのですが、定期テストの前になると他の教科も教えてもらいました。それが高校3年生の卒業後まで続きました。おかげで、高校の成績はどんどん伸びていきました。

支援センターに最初に来た時は、高校受験もあきらめていた私でしたが、次第に大学受験を考えるようになりました。教えてくれている大学生の進んだ道にあこがれ、大学に行き留学し外国で生活することも考え始めました。行ってみたい大学が出来ましたが、今の自分の学力では足りなくて悩みました。

でも、そんな私に、英語を教えてくれていた大学生は、わざわざ自分の空いている時間を使って毎日のように教えてくれ、ずっと励ましてくれました。高校三年間、受験の前日まで続きました。本当に助かりました

大学受験の時も、その方からもらったお守りを持って行きました。

おかげで、高校も無事卒業でき、希望の大学に入学することが



出来ました。本当に感謝しかありません。

吹田子ども支援センターがなければ、今の私はないと思います。

今、高校も卒業でき、大学生となり、森本先生に声をかけていただき、今度は、支援センターに来ている他の子どもに教える立場になりました。大学入試が終わってからは、支援センターで小学生や中学生の勉強の手伝いを始めています。

これからは、今まで私がしてきてもらったように勉強や学校のことなど様々なことを教えたり、また、自分の経験から、悩んでいる小中学生の相談にのってあげられるようになるになりたいです。(2018年4月)

娘に笑顔が戻りました

… 保護者 (女子Tの母)

娘が学校に行けなくなったのは、小学校3年生の冬でした。

はじめはただの風邪だと思いましたが、数日後には起き上がれなくなり、部屋を閉めきって、怯えたように暮らすようになりました。学校はおろか、外出もできなくなりました。

病院の心身症外来で、起立性調節障害と、目で見えて認識する力が弱いという診断を受けました。場の空気を読んだり、行間を読むことも苦手ということです。

入院して院内学級に通い、体調は少し良くなりました。退院後、支援学級に移り、様々な配慮をしていただきました。けれども通えませんでした。1年以上経って、本人にとって学校が恐怖でしかないことを親がやっと理解しました。

小学校には行かないことを決めて、その後は、フリースクールや放課後デイなど色々なところに行きました。けれどもどこに行っても娘の表情は硬いままで、見学だけで諦めるようなことが続きました。

知り合いの方から支援センターのことを教わり、ここならばと思い、連絡をとりました。初めは母のみが相談に行きました。森本先生にこれまでのことを聞いていただき、『娘に何を言っても、「知らん」「わからん」と、他人事のようにしていることが、とてももどかしい』と訴えました。

森本先生は、「親の顔を立てて行けるくらいなら、学校に行っている。それでも行けないから行っていない。」「学校に行きたい、行けないことの辛さを、子どもは絶対に親には見せない。それは子どものプライド」だと話してくださいました。子どもを責める気持ちが小さくなり、心が一気に軽くなりました。家に帰って、面談で聞きたいいろいろなことを話すと、娘もうれしそうに「わかってくれる人もいるんやなあ」と言いました。

後日「あの先生のところ、いつ行くの？」と、娘から言ってきました。先生に連絡すると、家庭訪問に来てくださいました。5年生の1月でした。お話をして、娘が一瞬で心を開いたのがわかりました。先生が来られた日は鼻歌が出て、家の中が明るくなりました。

まもなくカフェに通うことになり、カフェには親が車で送り迎えをしました。カフェでは、初めはお話を中心でしたが、次第に学習も始まり、「大丈夫、できる」と、どんどん授業の日数が増えていきました。カフェでは、中学生の方とも知り合わせてもらいました。

しばらくして、娘が一人で動けることはとても大切だと、一人で自転車で通うよう勧めてもらいました。

娘は、外に出る時には、同級生に会ったらどうしよう、人に見られるのではないかと、とても緊張するようです。先生はそのこともよくわかって下さっていました。初めて一人で自転車でカフェに通った日、先生に付き添っていただいたことが、大きな安心だったと思います。

自転車でカフェに行けるようになってからは、「一人でできる。お母さんは過保護過ぎ。」と言い、急に自信がついたようでした。

ある日、娘が「私も大学行けるんや。」とぼそっと言いました。それから、将来の夢を語るようになりました。しばらく考えもしなかったことでした。そして、「留学したいから、この中学校を受けたい」と言い出しました。森本先生と出会って、わずか1~2か月後のことです。

森本先生が受験のための学習計画を組んでくださいました。その中で、たくさんの先生に勉強を教えてくださいました。学校の先生だった人やボランティアの市民の方、大学生の方で、とてもバラエティーに富んだすばらしい先生方で、本当にありがたい出会いでした。

娘は人との関わり方が不器用で、対人関係で経験不足ですので、集団や同年代の方の中に入ることは難しいです。本人の様子に合わせて丁寧にすすめていただいたと感謝しています。

ずっと順調なわけではなく、夏休みの時期から2~3ヵ月全く通えなくなりました。体調も気持ちも戻らず、再度入院しました。その間も、先生は連絡をくださり、寄り添っていて下さいました。カンファレンスにも来ていただきました。

定期的な母との面談では、現状と目標の確認もありますが、母子の関係について、たくさん話していただいています。

『何でも子どもの言いなりの親』も、『管理しすぎる親』も、子どもにとってはものすごく不幸ということがわかりました。まだまだ私はのめりこみ過ぎるのですが、心に留めて、子どもに接するようになりました。

11月からは、受験科目に絞って、森本先生に家庭訪問でみていただきました。

終盤は、先生の鬼の迫力に圧倒されながら、受験に備えました。おかげで「がんばった」という気持ちで試験に挑めました。合格発表の時、いつもクールな娘が、「やったー！」と声をあげました。本当にうれしかったのだと思います。

入学が決まった後も体調が悪い日が多く、すべてが解決したわけではありません。けれども、不安ながらも入学を楽しみに過ごしています。この先何があっても、「カフェがあるからなんとかなる」と本人は言っています。本当の意味での居場所を見つけたのだと思います。

学校に行かなくてもいいよと言ってくれる人はたくさんいますが、じゃあ学校に行かずにどうすればいいのか、その先どうなるのか、を示してくれる人はあまりいませんでした。娘には学習の支援が大きな力になりました。とはいえ小学校に3年弱しか行っていません。ゴールを見据えた方針のもと、手取り足取り教えて頂くことが必要でした。普通の家庭教師では、経済的に無理でした。何より、娘と親が安心してついていけたのは、吹田子ども支援センターだったからだだと思います。支援センターに出会えて娘は本当に幸運です。ありがとうございます。支援センターの活動が続き、私達のように救われる親子が少しでも増えるといいなと思います。(2019年2月)

※ カフェ（子どもカフェ）とは、吹田子ども支援センターの子どもの居場所兼学習室のことです。

傷つき怯える息子の助けを求めて

…保護者（男子Tの母）

とうとう恐れていたことが現実になりました。

それは、息子が中学1年生の12月のある日、学校に行けなくなったのです。

「誰か助けて！」…私は、気がつけば以前にネット検索で見つけた「吹田子ども支援センター」へ電話をかけていました。

それが、森本先生との初めての出会いでした。

必死の余り、名前も名乗らず話し始めたにもかかわらず、しっかりと受け止め聴いて下さり、「今からセンターに来られますか」とのお話に、私達親子は、その日のうちにセンターの扉を開けました。

周りのすべてに絶望し、いますぐ差しのべてくれる手が欲しかったのです。

それから約1年間、学習支援や不登校時の居場所としてお世話になりました。

みんなそれぞれに事情も理由も違い、不登校のかたちもさまざまだと思いますが、

息子の場合は、はっきりとした原因があり、中学1年生の10月頃から「行きしぶり」が出はじめており、すでに精神的に追いつめられていたのです。

センターに通い始めた頃は、息子は、傷つき、身も心もボロボロの状態でした。同じ学校の中学生に出会うことに怯え、いつもびくびくし、家から出なくなっていたのですが、きちんと話を聴いてくれる森本先生のもとへは出かけていきました。

学習面でも凸凹があり、集中力や気分にもムラがある息子にとことん根気強く向き合い、時には良き相談相手になっていただくうち、カチカチに固まっていた心が少しずつやわらかくなって、精神的に落ち着きを取り戻していきました。

そのうち学校へ通えるようになり、1年後には、高校へ行くことを諦めていた息子が高校入試という目標に向かってしっかり歩み始めるまでになりました。

現在、第一希望の高校に合格して、毎日とても充実した生活をおくっています。

ふり返ると、学校に行けなくなったあの日、家族以外に「助けて!」と言える勇氣を持ち、あのタイミングで迷わず電話をかけたこと、すぐに行動したこと、先生方の話や提案に耳を傾け、受け入れて対応できたこと、そして、何かあった時すぐに話せる親子関係であったこと等が良い方向に繋がった条件だったと思います。

これらの条件は、吹田子ども支援センターが開設されていたからこそろった事で、もしも森本先生に出会っていなければ息子は今でも自分の部屋から出ることはなかったかもしれません。

息子にかかわってくださったセンターのすべてのみなさん、本当にありがとうございます。今でも、毎日、毎日、感謝しております。

(追記) あれから3年 息子は今…

…保護者(男子Tの母)

あれから3年経ったんだなぁ…春を迎え、遠目に桜を見ては、支援センターでお世話になっていた壮絶な日々を思い出しています。

支援センターでお世話になっていた頃……それはそれは泥沼の中 親子で七転八倒の壮絶な日々でした。

そんな息子がその後どうなったかを、話したいと思います。

息子は学習面に凸凹があり、こだわりも特性もあり、そのことで学校生活の中で壮絶ないじめを受け不登校になりました。

支援センターと出会い、心に生きる灯をともした息子が新天地(進路)に選んだのが全寮制の農業高校でした。

進路選択を目前にした息子の中学3年生の秋から、私はどこかに必ず息子の居場所があるはずだと信じ、全国規模で進路をさがしました。場合によっては引越す覚悟

でした。

すると息子の心に ビビッと響く学校に出会ったのです。

不登校の中学3年生が家を出て寮に入ることを選ぶなんて…と驚かれるかも知れませんが 本人いわく『自分のレッテルが何もない場所で0から人生をやり直したかった』と言っていました。

3年間の寮生活、もしかしたら逃げ帰って来るかもといつも不安な親心をよそに息子はというと、まるで水を得た魚のように生き生きと生活し一生の「友」も得ることができました。もちろん3年間辛いこと苦しいことも多々ありました。その度に互いに傷つけ、傷つけられ、削り、削られ、卒業式には皆丸く磨き上げられた光輝く原石のように眩しく見えました。

現在18歳の息子は本格的に酪農を学ぶため、この春から農業大学校に進学しまた寮生活を送っています。今後も自分が持っている特性(凸凹)を息子自身が理解し付き合い続けなければいけないという課題はありますが…

森本先生の教え通り不必要な手助けは我慢してそっと見守っていこうと思います。

あれから3年、もう一度振り返り思うことは

- ◆ 私自身意識してきたことですが、心配事、愚痴などどんな些細な事でも話せる親子関係を築いていこうとしてきた事です。それを幼児期から続けてこれたことです。
- ◆ いざという時「助けて」と言える吹田子ども支援センターの存在があったことです。

息子には、昼夜を問わず必死になって本気で向き合ってくれた先生方がいたこと。そのことが、息子が「生きる」ことに希望を持ち、人生を「再スタート」させた原点になったと思います。

母親の私には、親のプライドなんてかなぐり捨てて、本気で子どもと向き合うことと教えてもらったこと。何十年も生きてきて誰も教えてくれなかったことをたくさん知りました。

この2つが、私たち親子が闇のトンネルから抜け出せた鍵があり、支援センターが息子の人生再スタートの原点だと確信をもって言える理由です。

この先も支援センターと出会い、もう一度顔を上げ前を向くことができるお子さんが一人でも増えることを願ってやみません。

最後に息子からの一言

『一人前に自立したら 先生に会いに行くよ』

先生方、どうぞ気長にお待ちくださいませ。(2019年4月)

貴重な出会いに感謝

…今は夢に向かい歩む娘です…

…保護者（女子Mの母）

娘は中学一年の時からこちらでお世話になりこの2月に無事に志望校に合格することができました。

こちらにお世話になる前の娘の状態は、学校へ登校していると思っていたら後で引き返してきて部屋の布団に引きこもっていたり、嘘をついたり、もちろん目標もなく勉強する意欲もまったく感じられない状態でした。

見かねた母親の私は、がみがみ叱りつけるだけで、親子の関係も最悪の状態でした。その時の私の心境は、希望もなく解決方法もわからず本当に疲れ切っていました。

そんな時に学校のカウンセラーの方の紹介で、森本先生に出会い、こちらにお世話になることになりました。

初めは、娘の胸にたまったどうしようもない想いや出来事などの話を先生方は根気よく聞いてくださり、娘の良いところを見つけて伝えてくださり段々と娘も先生方を信頼して心を開いていっているようでした。

学校は行きたがらなくてもこちらにはどんな時でも休みたがらずに約3年間、自転車で約30分の距離を雨の日も寒い日も暑い日もひたすら通っていました。

そうこうしている毎日の中で、娘は将来、看護師になりたいと言い出しその目標を先生方は温かく応援して下さりなんとか希望した看護学科のある高校への入学も決まりました。

私は、娘の良いところも見つけられず、信頼もできず苦しかった1年生の時を振り返ると本当にこの貴重な出会いに感謝しています。

高校受験が終わったので私は、3月でこちらも卒業かなと考えていましたが、娘の強い希望もあり、無事に看護学校に入学するまではこちらに気にせずに通っていいとの森本先生の言葉に甘えて通わせて頂くことになりました。

道半ばですが、このまま諦めずに将来の自分の夢を実現して先生方に恩返しをしてほしいと思います。

そして、笑顔のなかった娘がここまで元気になれたことに、森本先生、寺島先生、李先生、その他の先生方にこの場を借りてお礼を申し上げます。

また高校3年間どうぞよろしくお願ひ致します。（2019年3月）

わが子が一步踏み出す場所に

わが子が学校に行くことを辛そうにしたり、イライラして今までの様子と違うなど感じたのは、中学2年生の5月くらいでした。

担任の先生にも相談しましたが、学校では特に変わった様子がないとのことでした。

しかし、明らかに登校前のため息をついたり、遅刻していく日も増え、体調の悪さを訴えるようになり、休みがちになりました。ここから、欠席の期間が長くなり、結局中学生活が終わるまで、学校に行かなくなりました。

なんとか登校してもらおうと転校も2回ほどしましたが、どこも続かず、体調の悪さを訴えるばかりでどんどん社会と離れて閉じこもるようになりました。

学校以外の相談場所もなく、途方に暮れていたとき、内科のお医者さんに診てもらうことにやっと同意したので、わが子を連れていき、そこから別の病院を経由して、吹田こども支援センターのことを知りました。

といっても、どんなところかわからない機関なので、親子ともためらいながらでした。森本先生はすぐに時間を作ってください、親身に話を聞いてくださりました。社会と離れて一人でいたわが子が森本先生の問いかけに、言葉を選びながら、話す姿に涙ができました。

「いつでも来ていいし、いつでも帰っていいよ」と森本先生が、優しく話して下さったことが、《学校に行きたくても行けない。行かなくてはいけないとわかっていてもいけない》わが子にとって、一步を踏み出す場所になりました。

その日から少しずつ、支援センターに顔をだすようになりました。笑顔が増え、支援センターであった話を楽しそうにする姿は以前の時の様子と変わらなくなってきました。

毎日支援センターに通えるようになり、次に迫ってきた問題は高校受験でした。現実から逃避しているわが子に支援センターのスタッフの方は、それぞれの立場で励ましたり、耳の痛い話をしたり、進学に必要な情報を集めてくださったりしました。

時には心を鬼にして、子どものために、突き放して自分で考える時間を持たせたりもしていただきました。個々に合わせた支援を考えて取り組み、思春期のややこしい子どもに向き合ってくださいました。

わが子は現在、高校2年生になり、毎日高校に通っています。将来のことも夢を持つようになり、今は次の大学受験に向けて勉強したり、クラブ活動もがんばっています。中学時代にできなかったことを高校生活の中で楽しんでいる姿を見て嬉しく思っています。

3年前、どうしていいかわからず、困っていたことを考えると、今は、長いトンネルを抜け出せたところです。もう少し早く支援センターの存在を知っていたら、無駄な転校を繰り返すことなく、子どもの心の傷もここまで深くなることはなかったのだ

は？と今になっては思います。

私のようにこういう支援をされている民間機関があることを知らない方はたくさんいるでしょう。

今も困っておられる親子にこの吹田子ども支援センターのことを少しでも早く知っていただいて、長くて暗いトンネルからでる、一筋の明かりを見つけられることを祈ります。

最後になりましたが、森本先生はじめ、吹田子ども支援センターのスタッフの方々にはお礼を言い尽くせないほど感謝していることを付け加えさせていただきます。

長くて苦しい日々を過ごして

…保護者（男子Sの母）

「もう学校に無理に行かそうとするのはやめよう。」と毎日学校に行き渋る子どもと格闘していた私はようやく決断しました。

今、高校2年生になる子どもは、小学6年から中学3年までの4年間、不登校でした。子どもには何か特別な理由があったわけではないものの、小学3年生のころから時々学校に行き渋りがあり、人と関わる事や環境や状況の変化が苦手なところがありました。

しかし、その頃の私にはまさに青天の霹靂でした。子どもの気持ちはいつも不安定で生活リズムは崩れ、勉強は手につかず、テレビやゲームで暇をつぶし、母子で過ごす不安な時間が果てしなく続きました。

自分の子どもが学校に行けなくなるなんて到底信じられず、いつになったら教室に行けるようになるんだろう、でもどうすればいいんだろうと、途方に暮れる毎日でした。そんな子どもを親として受け入れることは本当に難しく、長く苦しい日々が続きました。

それでも私は子どもの現状を理解し、少しでもこの状態が何とかならないかと思い、ありとあらゆる所で相談したり、手当たり次第、本で調べたりしました。そういう手探りの状態が長く続き、試行錯誤をしながらも子どもが安心できる場所や一緒に居てもらえる人たちを探し続けた結果、少しずつ図書館や学校の相談室、通級指導教室、適応指導教室などで過ごすことができるようになりました。しかし改善は見られたものの、子どもの調子には好不調の波があり、外出することがとても難しくなることも度々ありました。

そんな折、子どもが中学2年の秋に吹田子ども支援センターの講演会があることを小学校時代の先生から紹介して頂き、参加する機会に恵まれました。そこで吹田子ど

も支援センターの活動を知り、早速、森本先生と津田先生に相談に乗って頂きました。お話をしているうちに森本先生とは以前子どものことでご縁があったこともわかり、子どもを連れて来ることにしました。

その頃の子どもは朝起きられない状態だったので、不規則な生活を少しでも改善するために津田先生に週一回、午前中の家庭訪問をお願いしました。その後、次第に津田先生に心を開いていき、一人でも吹田子ども支援センターへ訪問できるようになりました。

このセンターでは、津田先生と話をしたり、好きなパソコンやゲームをさせてもらったり、森本先生やスタッフの方たちとも話し、同世代の生徒の人たちとも徐々に関わるできるようになっていきました。

そのうち午前と夕方に子どもカフェという子ども同士の交流の場に通うようになり、安心して過ごすことのできる、なくてはならない場所になっていきました。

津田先生は子どもに対して熱意を持って親身に向き合い、子どもの先を見据えて今何が必要かを常に考えながら接して下さいました。主人共々私達に対しても的確なアドバイスも下さって、親にとっても大きな支えとなって下さいました。

吹田子ども支援センターでの皆との関わりを通して子どももゆっくりと成長していき、吹田子ども支援センターの友達と高校のオープンスクールに行くことができたり、試験自体経験がなかったにもかかわらず模擬試験を受けることができるまでになりました。また、友達とちょっとした口げんかもしました。

子どもにとっては、これらの経験が非常に大きく、そこが単なる居場所ではなく、いつも自分を受け入れてくれる先生と仲間がいる場所となり、自信と希望につながっていったのだと思います。おかげで全く見えなかった高校進学への道筋も見えてきました。

子どもは、4年間、義務教育の流れからは離れてしまいましたが、本当に多くの人たちに支えて頂きながら成長することができました。中でも津田先生には何かと連絡し、今でも相談に乗って頂きながら学校生活を送っています。そして、高校の先生方や今までお世話になった先生方にも支えて頂き、まだまだ課題はあるものの、少しずつ自分でできることを増やしていっています。

最近子どもが、「自分はたとえ中学に行けていたとしてもどこかで不登校になっていたと思う。」と言っていました。不登校は偶然ではなく、子どもにとって避けては通れないプロセスだったのかもしれませんが。また別の時に、「今は困ったことがあってもいつでも相談できる先生がいる。」とも言っていました。

私達にとって吹田子ども支援センターとの出会いがあったお陰で今の子どもの成長があるように思えます。子どもにとっても時間を問わず、いつでも頼ることのできる津田先生に出会うことができ、先生にはご負担を多々お掛けしていますが、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

出会いに感謝！進路が開けた

…保護者（男子Mの母）

息子は、知的障がい者です。中学の進学も支援学校に通うか迷いましたが、将来のことを考えて地元の中学校に通いました。

中学三年生になり、進路を決める事が迫られた二学期、私も息子に真剣に向かい、進路の話をしました。

進路に対する本人の意思を聞くと、自分もみんなと同じような高校に行きたいと言ってきました。親として、息子の気持ちを大切にしたいと思うけれども、息子の願いが実現するとはなかなか思えず、頭を抱えながらも何とか息子の願いを実現させてやれないものかと考えました。

その話を担任の先生に伝えると、担任の先生は驚き、母親の私に「息子が普通の高校へ進学するには、ある程度の成績がないと、まず、受からない」と説明してくれました。

実際、息子の成績は、ほぼ内申のみの点数で、入試試験で他のお子様と同じような点数を取ることは考えられませんでした。

息子に入試に合格する学力をつけてくれる所を求めて、学習塾など心当たりの所を訪ねてはみたものの、どこも「受け入れます」との良い返事をいただけず、困っていました。

そうした時、知り合いの人から吹田子ども支援センターの連絡先を教えて頂き、電話で相談し、さっそく訪ねました。

森本先生とお会いし、その際に息子の気持ちや障がいの様子、今までの経過や志望校を説明しました。

必死に説明したものの、てっきり断りの返事が返ってくるものと思っていた私に「良いですよ。精一杯やりましょう。」の一言が返ってきました。驚き嬉しかった事を覚えています。

さっそく、森本先生の勉強が始まりました。先生が息子に教えて下さったのは、まずは数学でした。森本先生の求めで、志望校の「過去問」を買い、持参させました。

息子は、人見知りが特に激しく、なかなか心を開かないのですが、息子の目線に合わせ、優しく励まし続けてくれる森本先生に、心を開き、学習しようとする気持ちが少しずつ生まれてきました。

しかし、初めのうちは、森本先生との学習は、およそ30分程度で終了でした。

というのも、息子は、集中して勉強をした経験がなかったので、気持ちが長く続かなかったのです。

毎日毎日、「過去問」から同じ問題を解くのですが、5分後には解き方を忘れ、な

なかなか定着することはありませんでした。

それなのに、森本先生は、毎日、息子ができるようにと用紙に解き方を何回も何回も書き、丁寧に時間をかけて取り組んでくれました。

学習を始めて2ヶ月が過ぎた頃から、先生の情熱、熱心な教え方に息子の学習意欲が次第に出てきました。高校への行きたいという気持ちも高まり、集中力も持続してきたのです。

なんと、12月に入る頃、森本先生と毎日1時間30分の勉強をするようになりました。

森本先生から来る毎日の学習の様子を伝えるメールや電話、息子が持ち帰るメモ用紙から学習の様子が伝わり、息子の頑張りが実感できました。

そして2月、私立高校の入試試験を迎えました。合否発表の通知が自宅に届くまで重苦しく時間を過ごしていました。届きました。なんと！合格の文字が…。

森本先生に伝えると「よくやった！」と息子を褒めてくれました。嬉しかったです。

息子のように勉強のしたことのない子どもを一から丁寧に教えてくれる先生に出会えたことが本当に良かったと思っています。

私立高校を併願で合格したことを先生やクラスの人に伝えても、なかなか信用してもらえなかったらしく、次の日、親に内緒で合格通知を学校に持っていきました。

合格通知を手にした子ども達は、やっと息子が本当に合格したことを信じてくれたと当日のことを生き生きと話してくれました。

今までクラスではなじめていなかったのですが、その日を境にクラスの子と会話をすることが増えていきました。同じ受験生の仲間として接してくれたようです。

息子は、努力することの大事さを知り、頑張った自分に誇りを持つようになっていきました。

親から先生にお願いし、その日以降の全ての科目をクラスの人と同じ教室で勉強することになりました。

私立高校に合格したものの、子どもや私の一番進学させてやりたい学校は、ある公立高校でした。新たな目標に向かって一ヶ月、森本先生との毎日の勉強が続きました。面接練習も何度もしたとのことでした。

3月の公立高校の入試。その面接では、息子の自信が、声の大きさにあらわれ、親の私が今まで聞いたことのない大きな声で志望動機を面接官に伝えることが出来ました。

無事、公立高校にも受かり、念願の高校生になることが出来ました。

高校2年生となった現在も、息子は、毎日元気に通学し、吹田子ども支援センターでの森本先生の学習も、また、他のスタッフの方との学習も続いています。

本当に吹田子ども支援センターに出会わなければ、希望する高校に行けませんでしたし、息子自身の生き方も、変化がないままだったと思います。

息子の目線でのサポートしていただける場所に出会えて感謝しています。

本当にありがとうございました。

勉強は苦痛ではないとわかりました

…中学1年生女子M

私は、森本先生のところに来たばかりのころ、学校を休んでばかりで勉強も一切せず、学校にいることが苦痛でした。家では、勉強や宿題をしないので親に怒られて家の中の空気が毎日ピリピリしていました。

学校に行っても、家で怒られてばかりできげんが悪いし、勉強もしてないので、まったく授業がわからなくて、おもしろくありませんでした。

でも、どこかで「このままではだめだ」と危機感も感じていました。

ここでは、最初はあまり勉強せず、先生とお話したりして、すぐに帰ったりしていましたが、「学校で勉強についていけないのは嫌だな…」と思い、少しずつするようになりました。

しばらくして、ここに来て、1回目のテスト期間になりました。

とりあえず、全教科の点を上げるのは、あの時の私には無理があったので、社会をまずは確実に点を上げるように努力をしました。

テスト期間中は、ほぼ毎日ここに来て、社会を勉強し続けました。

そして、テストが返ってきたら20点以上、点が上がっていました！

これに親も驚いていて、すぐに森本先生に電話をして知らせました。

先生も喜んでくれて、私もちゃんと結果が出たことがうれしくて、勉強が「苦」ではなくなりました。他の人から見たらたいしたことのない点数だけど、私にとっては大きな喜びでした。

勉強は、コツをしっかりとつかんだら、苦痛ではないとわかりました。

それからは、少しずつ他の教科も取り組むようにしています。

今は、週に4回、そのうち2回を森本先生と社会と英語の勉強を、もう2回を寺島先生と数学の勉強をしています。数学では、苦手だった計算問題も最近出来るようになってうれしいです。

今度は、同級生と同じくらいの点数がとれたらいいなあ～。

(追記) 高校入学…今後はセンターのお手伝いも！

…その後的高校1年生女子M

勉強する気持ちにもなれず、学校にいることが苦痛で学校をよく休んだ私でしたが、ここに来てからだんだん落ち着き、自分の夢も定まってきて、昔より勉強にはげめる

ようになりました。毎日のようにここに来て勉強していました。

そのおかげで、希望する看護学科のある高校に進学することができました。

これからは、高校生になっても自分の勉強をすると同時に、ここに来ている人のお手伝いができたらと思います。

子どもカフェでの支援

…大学院生 A (ボランティアスタッフ)

私は3年ほど前から、教員を目指しているということもあり、恩師のお誘いで、子どもカフェで子どもたちの学習支援をさせて頂いています。学習支援といっても、初めの頃はトランプや雑談など子どもたちの居場所作りが主な活動でした。

その中で、一人の女の子が英語の学習を始めたいということを目にし、1週間に1度くらいのペースで英語学習を開始することになりました。

なかなか思うように学習を進めることができていなかった彼女にとって、この一歩はとても大きな一歩であったと感じ、私もどうにか彼女の力になりたいと思いました。初めは慣れない状況で、15分ほどの学習がやっとだった彼女ですが、それでも投げ出さずに少しずつ学習し、今では毎週1時間以上の授業をこなしています。そうして段々と彼女の英語に対する関心も高まり、それが次には自信につながっていく様子を見ることができ、涙が出るほど感動したこともあります。

中学校からの高校進学に対してさえ前向きではなかった彼女が、高校進学を決め現在は大学進学に積極的に挑戦する姿は本当に逞しく、パワーに溢れています。

私はこの学習支援を通して、子どもたちの持つ可能性を目の当たりにしました。様々な日々の困難の中で、子どもたちが立ち止まってしまうこともあると思います。

しかし、彼らにはもう一度歩き出す力があり、その力を蓄える居場所として子どもカフェの存在は非常に重要なものであると感じました。私のような少し自分たちよりも年上の学生とたわいの無い話をする時間や、他者と関わる時間をもつことは、立ち止まっている子どもたちの心を少し外向きに開いてくれるのではないかと思います。

親から言われると反抗してしまうようなことも、他の人からアドバイスされると案外簡単に受け入れられることもあります。進んだり戻ったりを繰り返しながら、少し背中を押してあげることで、驚くほどぐんぐん成長していく姿を見て、その可能性を絶対に諦めてはいけないと学びました。

ここでの経験は私にとって大変貴重なものであり、教員になる上でも一生忘れず持っていたいと思うようになりました。

この子どもカフェは、子どもたちはもちろんですが、私のような学生にとっても非

常に素晴らしい経験を積むことのできる場所であり、その場に関わることができて本当に幸せです。

助けを必要としている子どもたちやそのご両親にとって、子どもカフェが大きな支えになっているのだと実感しました。



寄せられた市民の声から



- ◆ 子ども達と社会との架け橋になることであれば、私の出来ることで協力させていただきます。(市民)
- ◆ 活動に共感します。少しでも不登校の子ども達の力になればと思います。ご連絡下さい(元教師)
- ◆ 子ども達が学校に戻っていくお手伝いが出来たら嬉しいです。(大学生)
- ◆ たくさんの子どもたち、親たち、先生たちが救われたことでしょう。これからも活動を是非とも続けて下さい。私も応援します。(市民)
- ◆ 主婦です。教職経験はありません。わが子が不登校になり悩んでいた時、吹田子ども支援センターの活動をホームページで知り、私にでもお役にたてるのであれば、お手伝いをしたいと思い連絡しました。(市民)
- ◆ 講演会も良かったのですが、本日のような少人数での親の相談会・交流会も有り難いです。同じ悩みを抱えたお母様方と同じ時間を過ごせて癒されました。(中学3年生の母)
- ◆ 大学の講義で、不登校の子どもへの関心が深まり、是非とも関わりたいと思いました。授業の空いている時間に出来るだけかかわりたいです。(大学生)
- ◆ ニュースや友達から聞く限りですが、学校教育の現場は益々厳しく、課題も多様化しているとのこと。支援対象を子ども、親に限局せず、「市民ネットワークをつくっていこう」とされることに共感しました。(市民)
- ◆ 子ども達を育てていく親としても、このような「場」があることは安心感につながりますし、現場で悩む若い教職員の方々を支えてくださる事にも期待しております。(市民)
- ◆ 福祉関係の仕事に就いています。お役に立てることがありましたら、喜んでお手伝いさせていただきます。(市民)
- ◆ 近所の母子家庭のお子さんが不登校で自宅にずーっと引きこもっているのを知りどうしたものか困っていたところ、近所の人に森本先生に相談したらと勧められました。さっそく学校や母親と連絡され、今、勉強を見ていただいているとのこと、ありがとうございます。(市民)
- ◆ 大学生をサポートする仕事をしています。

子どもの相談援助や就職等専門機関の情報提供及びそこへつなぐ事ならい つでもご連絡下さい。(市民)

- ◆ パソコン関係の仕事をしていました。パソコンを子ども達に教えることができます。(市民)
- ◆ 私は、自身が身体障がいの後遺症を負い「いつか障がい者の方や不登校・ひきこもりの方へサポートをしたい。自分の経験を生かし、お役に立ちたい」と思っていました。活動を手伝わせて下さい。(市民)
- ◆ 大学生の支援員が必要な時は、声をかけて下さい。学生達に呼びかけます。また、講演会を開催される時に大学を利用していただければと思います。(大学教授)
- ◆ ホームページを拝見しました。私は、将来教師になることを目標に東京の大学で学んでいます。
吹田まで伺い、直接的な活動支援は出来ませんが、賛助会員として支援します。頑張ってください。(大学院生)
- ◆ 社会福祉関係の仕事についております。教職経験のない私ですが、何かお役にたてることがありましたらご連絡下さい。(市民)
- ◆ 昨年吹田の小学校を退職しました。小学校の子ども達のお役にたてることがありましたらご連絡下さい。(元教師)
- ◆ 今春、大学生になりました。ホームページを見てスタッフになれたらと連絡させていただきました。小学校の先生になりたいと思っています。不登校の子どもやひきこもりの子どもと接したいです。私でも大丈夫でしょうか。(大学生)
- ◆ Aさんのお手紙、すっかり高校生らしくなったBくん姿…大変嬉しく思いました。本当に「吹田子ども支援センター」の皆様のおかげです。
今回の活動報告を拝見して、改めて厳しい運営状況がわかりました。
企業会員に入会させていただきたいと思えます。(連携する医療法人医師)
- ◆ 着実に子どもの前に階段を用意しようとされておられることに共感を覚えます。お手伝い、出来ることはさせていただきます。(元教師)
- ◆ 企業会員に入会させていただきたいと思えます。(連携する医療法人医師)
- ◆ 私の息子が孫の事で先生にお話を聞いて頂き、すごく心の支えになったと思います。ありがとうございました。私が、お話に寄せていただいた時、2階の狭い部屋いっぱいには生徒さんに勉強させてあげていたのが頭にあります。相談や生徒さんのお世話にと大変なお仕事に頭が下がります。一人でも多く困った人を助けてあげてください。(市民)
- ◆ 子どもが支援センターにお世話になり、今は元気に働いております。感謝の気持ちで、企業会員として毎年わずかですが賛助金を振り込ませていただきます。(保護者)



◆ 今春大学に入学しました。教師を目指しています。是非ともお手伝いをさせて下さい。(大学生)